



# 損保ジャパン記念財団 News

●発行者：財団法人損保ジャパン記念財団 〒160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1 損保ジャパン本社ビル37階  
TEL03-3349-9570 FAX03-5322-5257 <http://www.sompo-japan.co.jp/foundation> Eメール:fvgp3340@mb.infoweb.ne.jp

## 17年度第2回通常理事会・評議員会(3月30日)開催 平成18年度 事業計画・予算が決定

平成18年3月30日(木)開催の理事会・評議員会において、総額1.3億円の事業計画および収支予算が承認されました。厳しい経済情勢のもと損害保険ジャパンからの寄付金が増えたことを受け、特色ある有益な事業への展開に一層尽力してまいります。

主な事業計画ならびに予算は下記の通りです。

### 1. 社会福祉事業

- (1) NPO法人設立資金助成(1,500万円・4月公募)  
障害者・高齢者福祉の活動を行う団体で、平成18年度中にNPO法人の設立申請を行う団体に対し1団体30万円、総額1,500万円を助成する。
- (2) NPO法人組織強化資金助成(1,200万円・下半期)  
福祉系NPO法人の育成を目的とした「組織強化資金」を、1団体100万円を上限に助成する。
- (3) 自動車購入費助成(1,000万円・9月公募)  
東日本地区のNPO法人等の障害者福祉団体に対し1団体100万円を上限に、総額1,000万円を助成する。
- (4) 会議会合・国際交流費助成(500万円・非公募)  
-障害者福祉団体の各種会合開催費・国際交流費の助成  
-障害者福祉団体に対する地域災害発生時の緊急対策費を助成する。

### 2. 福祉諸科学事業

- (1) 研究助成(200万円・非公募)  
社会福祉や損害保険等の研究に対する助成。
- (2) 研究会(講演会と合わせて400万円)  
-ディジェーズ・マネジメント政策課題研究会  
-保険業法に関する研究会
- (3) 講演会・シンポジウムの開催(研究会と合わせて400万円)
- (4) 刊行物の発行(300万円)  
研究会の研究成果、講演会の講演録を中心とした叢書の発行。  
NPO法人に関する各種資料の改訂版作成・配布  
財団活動に関する報告書の作成

### 3. 損保ジャパン記念財団賞(第8回)(800万円)

社会福祉分野の優秀な学術文献を表彰するわが国唯一の制度で、将来性が期待できる若手・中堅の研究者を対象として、人材の育成を目指し、ひいてはわが国の社会福祉の充実、発展に寄与することを目的としています。

(1) 賞の内容： 著書部門 原則1編 ・ 論文部門 原則3編以内

(2) 対象文献： 平成17年4月から平成18年3月までの間に、国内で発表された社会福祉に関する著書・論文で、指定推薦者による推薦を受けたもの。

### 平成18年度収支予算 (平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備考
<b>【収入の部】</b>				
基本財産運用収入	[ 7,500,000]	[ 7,800,000]	[△ 300,000]	
基本財産利息収入	7,500,000	7,800,000	△ 300,000	
寄付金収入	[ 80,000,000]	[ 73,000,000]	[ 7,000,000]	
損害保険シ・ャ・ハ・シ	80,000,000	73,000,000	7,000,000	
雑収入	[ 10,000]	[ 10,000]	[ 0]	
受取利息	10,000	10,000	0	
当期収入合計(A)	87,510,000	80,810,000	6,700,000	
前期繰越収支差額	43,000,000	56,000,000	△ 13,000,000	
収入合計(B)	130,510,000	136,810,000	△ 6,300,000	
<b>【支出の部】</b>				
事業費	[ 66,000,000]	[ 66,000,000]	[ 0]	
社会福祉事業	( 46,000,000)	( 46,000,000)	( 0)	
社会福祉助成金	42,000,000	42,000,000	0	
社会福祉諸費用	4,000,000	4,000,000	0	
福祉諸科学事業	( 12,000,000)	( 12,000,000)	( 0)	
研究助成金	2,000,000	2,000,000	0	
諸謝金	4,000,000	4,000,000	0	
刊行物関係費用	3,000,000	3,000,000	0	
諸費	3,000,000	3,000,000	0	
文献表彰事業	8,000,000	8,000,000	0	
管理費	[ 30,000,000]	[ 32,200,000]	[△ 2,200,000]	
人件費	( 18,000,000)	( 18,000,000)	( 0)	
役員報酬	8,000,000	8,000,000	0	
職員給与	10,000,000	10,000,000	0	
物件費	( 12,000,000)	( 14,200,000)	(△ 2,200,000)	
会合交通費	2,500,000	2,000,000	500,000	
旅費	700,000	300,000	400,000	
通信費	700,000	700,000	0	
消耗品費	300,000	300,000	0	
図書費	300,000	300,000	0	
備品費	100,000	200,000	△ 100,000	
資産管理費	500,000	600,000	△ 100,000	
印刷製本費	300,000	200,000	100,000	
光熱費	0	300,000	△ 300,000	
賃借料	400,000	500,000	△ 100,000	
調査委託費	200,000	200,000	0	
業務委託費	4,200,000	7,000,000	△ 2,800,000	
諸費	800,000	600,000	200,000	
雑費	1,000,000	1,000,000	0	
特定預金支出	[ 65,000]	[ 0]	[ 65,000]	
退職給与引当預金支出	65,000	0	65,000	
予備費	[ 5,000,000]	[ 5,000,000]	[ 0]	
当期支出合計(C)	101,065,000	103,200,000	△ 2,135,000	
当期収支差額(A)-(C)	△ 13,555,000	△ 22,390,000	8,835,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	29,445,000	33,610,000	△ 4,165,000	

# 18年度第1回通常理事会・評議員会(6月19日)開催 17年度事業報告・収支決算承認される

6月19日開催の平成18年度第1回通常理事会・評議員会において平成17年度の「事業報告」と「収支決算」が原案通り承認可決されました。

平成17年度の収入金額は、寄付金収入を中心に約1億3,700万円、一方当期支出額は、約9,000万円（助成金等の事業支出は6,200万円、管理費は2,800万円）となり、計画した事業はほぼ予定通り実施されました。社会福祉事業におけるNPO法人化支援を始め、福祉諸科学事業では、本年度から田中滋先生（慶応義塾大学大学院教授）を主査とする「欧米ヘルスケアビジネス及びディジェーズ・マネジメント研究会」を、発展的に2つの研究会に分け、「ディジェーズ・マネジメント政策課題研究会」を開始しました。社会福祉文献表彰事業としての第7回「損保ジャパン記念財団賞」も、回を重ねるごとに研究関係者の間での知名度が高まり、本賞が研究者に対する社会的評価の一つとして位置づけられるようになってまいりました。

## 平成17年度収支計算書 (平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)

(単位:円)

科 目			予算額	決算額	差額	備考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
<b>I. 収入の部</b>						
1. 基本財産運用収入			7,800,000	7,728,484	71,516	
2. 寄付金収入			73,000,000	71,262,500	1,737,500	
3. 雑収入	受取利息		10,000	55,645	△ 45,645	
当期収入合計(A)			80,810,000	79,046,629	1,763,371	
前期繰越収支差額			56,000,000	58,440,302	△ 2,440,302	
収入合計(B)			136,810,000	137,486,931	△ 676,931	
<b>II. 支出の部</b>						
1. 事業費	社会福祉事業	助成金	42,000,000	38,632,500	3,367,500	災害緊急対策助成なし
		諸費用	4,000,000	3,938,232	61,768	
	(小計)		46,000,000	42,570,732	3,429,268	
	福祉諸科学事業費	助成金	2,000,000	1,797,650	202,350	
		諸謝金	4,000,000	4,274,835	△ 274,835	
		刊行物関係	3,000,000	1,699,720	1,300,280	
		諸費用	3,000,000	3,683,910	△ 683,910	シンポジウム開催数増
	(小計)		12,000,000	11,456,115	543,885	
	文献表彰事業費		8,000,000	8,195,207	△ 195,207	
	(小計)		8,000,000	8,195,207	△ 195,207	
(事業費計)			66,000,000	62,222,054	3,777,946	
2. 管理費	人件費	給与等	18,000,000	18,051,315	△ 51,315	
	物件費	会合費	2,000,000	1,788,750	211,250	
		旅費交通費	300,000	376,135	△ 76,135	
		通信費	700,000	584,598	115,402	
		消耗品費	300,000	245,675	54,325	
		図書費	300,000	253,247	46,753	
		備品費	200,000	0	200,000	
		資産管理費	600,000	464,135	135,865	
		印刷製本費	200,000	339,050	△ 139,050	
		光熱費	300,000	0	300,000	
		賃借料	500,000	340,200	159,800	
		調査費	200,000	173,140	26,860	
		業務委託費	7,000,000	5,035,369	1,964,631	8月よりスタッフ1名減
		諸会費	600,000	800,500	△ 200,500	
		雑費	1,000,000	1,010,066	△ 10,066	
	(小計)		14,200,000	11,410,865	2,789,135	
(管理費計)			32,200,000	29,462,180	2,737,820	
3. 特定預金支出	退職給与引当預金		0	155,000	△ 155,000	
4. 予備費			5,000,000	0	5,000,000	
当期支出合計(C)			103,200,000	91,839,234	11,360,766	
当期収支差額(A-C)			△ 22,390,000	△ 12,792,605	△ 9,597,395	
次期繰越収支差額(B-C)			33,610,000	45,647,697	△ 12,037,697	

# 「第7回損保ジャパン記念財団賞」の贈呈式を開催

3月30日、わが国における社会福祉の優れた学術文献を表彰する「第7回損保ジャパン記念財団賞」の贈呈式が、損保ジャパン本社ビルで開催されました。

この賞は、中堅・若手の研究者の登竜門として平成11年から実施し、今回で7回目を迎えました。年ごとに賞としての社会的評価、ステータスは着実に高まっています。これまで受賞された方々は、それぞれの専門分野で着実な成果を挙げられ、社会福祉学の向上、ひいてはわが国の社会福祉の発展に寄与されてきています。

贈呈式は、厚生労働大臣の祝辞をはじめ、各方面から100名近いご来賓の方々が出席され、受賞者のスピーチなど熱気あふれる感動的な贈呈式となりました。

受賞文献は、推薦図書29編、推薦論文15編が3回にわたる審査委員会において、熱のこもった議論の中で慎重に審査され（審査委員長・大橋謙策 日本社会事業大学学長・日本地域福祉学会会長）、2月1日の臨時理事会で決定されました。受賞文献は、次のとおりです。

《著書部門》『フランス「福祉国家」体制の形成』

（（株）法律文化社 平成17年3月）

廣澤 孝之 様 松山大学法学部長

\*《論文部門》は、残念ながら今年度は該当なし

## 損保ジャパン記念財団賞」贈呈



受賞者の廣澤孝之氏



受賞著書を出版した法律文化社の田藤純子氏

# 受賞者記念講演会・シンポジウム開催

平成17年度の受賞者を講師にお招きしての記念講演会を、7月1日（土）に文京区白山の東洋大学で開催しました。受賞された廣澤孝之氏のフランスの「福祉国家」体制を取り上げた、希少なテーマでの精緻な研究発表は、多くの方々に大きなインパクトを与える講演となりました。

第7回目となる今年度は、過去に受賞された先生方を始め、社会福祉の分野で活躍されておられる著名な先生を講師にお招きして、他のシンポジウムや講演会ではなかなか聴くことの出来ない、理論と実践の両面からアプローチするユニークなシンポジウムを同時開催しました。

当日は200名近い方々が出席され、白山キャンパス6号館6210教室がほぼ満席の盛況となり、参加者が熱心にメモを取りながら聴講される姿がとても印象的でした。会場には、昨年引き続きパソコン要約筆記・手話通訳も導入し、誰にとっても快適な聴講環境を整備することに心を配りました。今回は、特に厚生労働省の後援もいただき、ますます充実した記念講演会へと成長しつつあります。

また、多数のアンケート（P6～P10）を頂戴いただきましたが、皆様のご期待に応えられるよう、充実したユニークな講演会の開催に向けて参考とさせていただきます。

## 受賞者記念講演会・シンポジウム プログラム

1. 「損保ジャパン記念財団賞受賞者記念講演会」  
廣澤 孝之氏 受賞著書：『フランス「福祉国家」体制の形成』（榊法律文化社）
2. シンポジウム①「日本の福祉のゆくえー福祉国家のあり方を考えるー」  
コーディネーター：武川 正吾氏（東京大学教授）  
パネリスト：栃本一三郎氏（上智大学教授）  
（順不同） 平岡 公一氏（お茶の水女子大学教授）  
廣澤 孝之氏（松山大学法学部長）
3. シンポジウム②「ソーシャルケアのゆくえー地域自立生活支援とソーシャルケアの質ー」  
コーディネーター：高橋 重宏氏（東洋大学教授・日本社会福祉学会会長）  
パネリスト：大橋 謙策氏（社会事業大学学長・日本地域福祉学会会長）  
（順不同） 田中 英樹氏（長崎ウエスレヤン大学教授）  
山崎美貴子氏（神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部長）



記念講演会・シンポジウムの会場を埋めた、多くの参加者の皆さん



## 講演会参加者のアンケートから



### 1. 「損保ジャパン記念財団賞受賞者記念講演会」

- ・国にとって基本的な福祉が国ごとに異なる形成の歴史を持ち、それが現在の国の福祉運営に大きな影響を与えているということについて考えさせられた。
- ・本も読ませていただいた。分かりやすいお話でよかった。
- ・社会連帯が国中心の仕組みでないことが分かった。共済組合中心にやっていくという考え方は市民自治の中の考えであるということだろう。市民というくくりが外れた人をどうするのかという問題が気にかかる。日本のように国民皆保健、皆年金というのも立派な理念、概念であると思う。
- ・フランスについてはあまり知識がなかったので、興味深く聞いた。
- ・福祉社会、福祉国家等、日常的に使っている用語を改めてフランスの歴史的展開の過程の中で論述されている本書の概要と、研究の視座を短時間で講演いただき、多くの示唆を受けることができた。
- ・フランスの社会保障の成り立ちや考え方を、おおざっぱに理解することができた。著書の課題が示されていて、本を読み取るときの参考になった。
- ・廣澤先生のお話は、とても分かりやすく、楽しかった。
- ・フランス福祉国家形成の過程について、簡単に分かりやすく説明いただいたので、理解することができた。一方、その結果、日本の福祉にどう役立つのか、どう応用するのか、どういったところが参考にできるのかについて、個人的には聞いてみたかった。
- ・海外の社会保障は弱い部分だったが、興味深かったので、また詳しく見ていきたい。
- ・イギリスの貧困政策から福祉国家が形成されていく文献は多数存在しているが、フランスの動向については私自身と大学においても研究文献や講義で触れることがなかったため参考になった。形成の方法が国レベルによって異なることを改めて知り、そこから日本の福祉はどこへ向かうのかを問う課題があったと思う。パターンリズムをある部分残しながらも、コミュニティの問題は、そこに生活している住民、国民の主体性(連帯感)と対人援助を提供する支援者とのパートナーシップであり、そこに国民形成の問題もあると思う。
- ・研究者でないので、細かいところは分からないが、概略としては明解な説明でよく分かった。地方分権が進められている現状における自治体の課題を、違う視点で捉えるきっかけになって、大変勉強になった。
- ・フランスについて知見を得た。
- ・大変良かった。興味深く、ゆっくりもう一度読み返したい。
- ・今まで日本の福祉制度しか知らなかったもので、他国の社会保障制度、福祉制度の発達の経緯を伺うことができ大変興味深く勉強になった。
- ・対日本の「福祉国家」観の相違についての議論があっても良いのでは？
- ・フランスでの社会保障制度について改めて興味が沸いた。歴史的な変化からみた社会保障の切り口はとても興味深く、今後他国との比較研究もしてみたい。
- ・各国の制度と日本の比較がとても理解しやすかった。社会哲学が福祉の基盤とされている中で、その違いが重要になっているとのことだが、違いの原因となる社会哲学の発達の過程の違いについて、もっと聴きたかった。
- ・日頃あまり馴染みのないフランス「福祉国家」について、体系的に分かりやすく説明いただき勉強になった。労災法や共済などに対する国民の抵抗など国民性を反映した事象が興味深かった。「福祉国家」と一括りにできないのではないかと考えさせられた。
- ・法学史の分包的「福祉史」を見つめられており、参考になった。福祉分野の研究と重ね合わせて学習できると、その国の風土や文化がよく理解できる。

- ・分かりやすい優れたスピーチであった。
- ・まとまった研究の少ない分野で傑出した著書で、遠隔地からやってきた甲斐があった。
- ・質問に答える先生の話の内容で“良き人柄”を感じた。
- ・社会保障論を小学校、中学校で教えているところは、全国どこにもないとの話だったが、社会保障と教育の関係も厚生労働省と文部科学省の縦割り行政の中で議論すれば尽きないことと思う。

## 2. シンポジウム①「日本の福祉のゆくえー福祉国家のあり方を考えるー」

- ・市民の福祉への関与が重要であると思った。
- ・内容の濃いテーマで、時間が不足し残念だった。テーマを絞り込んで準備して欲しかった。
- ・福祉政策を考える基盤が異なるということは理解できた。市民社会の民間活動が活発だった国と日本を比較することに意味が高いのかは疑問。もっと民活を進めよという議論なら分かるが。福祉全般でのシンポは話題が広がりすぎるのではないか。
- ・福祉国家を支える（形作ってきた）市民社会の現状について3ヶ国の社会福祉研究者から示唆に富んだ発言があった。社会哲学論についてはさらに深く議論を聞きたかった。
- ・私は様々な仕事を経験して今はホームヘルパーだが、しっかり勉強しようと思った。
- ・福祉制度をめぐる社会的諸変数が日本とフランスの場合大きく違い、人口学的変数よりもフランスの場合非労働力人口の増大、貧困の増大が議論の中心という点に興味を持った。社会問題の現象としては、日本・フランスとも同様な内容だと思うが、変数の捉え方の違いにより、それをどのように解決していこうとするかの政策自体が変わってくるため、その議論を作る社会問題を捉える視点やそれらを形成する思想の部分まで、時間があれば話し合いが持たれると面白いと思われる。
- ・一人一人の先生の話す時間が長いため、シンポジウムのテーマにまで議論が及ばなかった。各国の福祉に対する考え方については、ある程度理解ができた。
- ・重要なテーマで福祉関係の学生が学び考えるテーマ。時間の関係でポイントをどれだけ理解できただろうか。
- ・社会福祉政策と社会哲学の議論が興味深かった。
- ・日本の社会保障の考え方とヨーロッパの考え方の違いが明確となった。なぜそうなるのか？ということ、更に突っ込んで考える作業があれば、これからすべきことも明確になると感じた。
- ・時間的な制限もあるため仕方ないが、イギリスの社会福祉の現状と課題をもう少し掘り下げて日本ではどうあるべきか等について、もう少し平岡先生からお話を伺いたかった。廣澤先生のフランスと日本の対比でのお話は分かりやすく、要点的にまとまっていたと思う。ドイツにおいても日本の介護保険の先駆的な国として学ぶべき点が多く、ナチスの問題から変容した「福祉国家」の話は日本においても多々手本となる政策があると思った。ユニバーサルな視点からも世界的な視野で「国家」を見ていく今回のシンポジウムは楽しかった。
- ・各国の状況について知ること、日本の現状が良く分かって良かった。平岡先生のお話にあった自治体の相談機能の外部化に続く計画調整機能の低下について、もう少し詳しい話が聞きたかった。
- ・興味を持って聴くことができた。



シンポジウム①の様子

左から  
 コーディネーター：武川正吾氏  
 パネリスト：栃本一三郎氏  
                   平岡 公一氏  
                   廣澤 孝之氏

- ・日本の福祉が他国の福祉と比べて成り立ちが浅く歴史、文化などを反映していないことが分かった。日本の福祉の今後について自分も考えていかななくてはと思った。
- ・各先生方の研究分野も専門的で、かつ非常に興味深く拝聴させていただいた。これほどの企画を無料で行うのは今後到底無理なことだろう。皆様方に感謝申し上げます。私も更に自らを律し、襟を正して努力していきたい。
- ・日本の制度の変革が必要となっている現状の中で、各国の制度が参考とすることが非常に重要なのだと思われるが、逆に日本独自の社会の特徴から求められる福祉制度といった点はあるのか興味がある。
- ・若手の各国研究の第一人者といえる先生方の発表で楽しみにしていたが、時間が短く概要説明的になってしまったのが残念だった。テーマが大きいのに時間が足りなかった。日本との対比にふみこんだシンポジウムを期待したい。
- ・先進国3ヶ国からの状況が理解できて良かった。税負担のスウェーデン等があれば、より差が明確に理解できるのでは。
- ・時間が少し足りなかった。どなたの話も興味深かったが、中途半端で残念だった。
- ・それぞれの分野から意義深い情報と知見が得られたが、少々まとまりのつきにくい傾向があった。(時間も不足)
- ・世界比較の視点から福祉を語る時、福祉の哲学、理念、概念、歴史を知らずしては相手に話を聞いてもらえない基本を教えられ、“福祉”を考えるにあたり、確かに必要不可欠なことであると、改めて感じた。実際に個人的に色々思案する中、先人がすでに色々悩み、結論付けていることを知ることが多い日であるので、“新しい考え方”というものは出し切っていて、すでにないようにも思え、これからは個人の案の組み合わせによる考えに重点を置くべきではと考えている。

### 3. シンポジウム②「ソーシャルケアのゆくえー地域自立生活支援とソーシャルケアの質ー」

- ・具体的な内容が中心で分かりやすかった。
- ・仏独英3ヶ国の福祉が語られ、日本との比較が語られた。日本の福祉を個別でなく系統的に捉え、日本の福祉を分かっているものとしてではなく、仏独英と同じレベルで語っていただくと良かった。
- ・来年度から健康福祉関連の新学科を立ち上げる大学の教員として、ここで論じられた点を踏まえて、より良いカリキュラムづくりに努めていきたいと思った。
- ・90分で3名のシンポジストはもったいない。
- ・中身の濃いシンポジウムで大変有意義であったと思う。ミニ学会のような90分。シンポジストの先生方のお話もフロアとのやり取りも、せめて倍の時間が欲しかったと思う。(来年も期待している)
- ・ソーシャルケアの質の向上について、まだまだ課題であることは良く分かった。
- ・いつも思うのだが、ホームヘルパーの地位(こういう表現でよいのか分からないが)は、かなり低い。もっともっと働きやすい(賃金も)業界になればと思う。  
制度設計と実践と担い手の養成が、関連して構成されていないが故に、様々な弊害がサービス提供において出ていると思う。専門職の質の向上とその上でチームアプローチを行う重要性については、非常に興味深くお話を聞かせていただいた。一つ一つの家族における問題(たとえば介護、育児など)が複雑にまた他問題を持ちながら出現する場合、様々な専門職が一緒になり、チームを組みアプローチをする。しかし、アプローチの視点、枠組みが専門職ごとに違う。その中でシングルアセスメントの利用は有効な手段だと思った。
- ・非常に身近な話で、共感できる部分が多かった。  
イギリスに比べ日本のソーシャルケアワーカーの活躍



高橋氏と大橋氏



の場が少ないように感じ、今後課題として検討していく必要があると思った。また、地域生活支援センターに社会福祉士の配属が必要になったことで、期待できるものがあるのではと思う。

- ・各パネリストの時間不足。個々のテーマで講演したあとで、パネルディスカッションに入ってはいかがか。
- ・各自治会の責任者が街づくりを考える上で非常に有益ではなかろうか。
- ・大橋先生の地域とソーシャルケアサービスについてが一番理解しやすかった。大変興味深く、社会福祉の制度、設計と実践システムのリンクについても自分自身の検討課題としたい。
- ・大橋先生のコミュニティ・ソーシャルワークからの視点は、自分が研修している論考とコミットし、現在抱えている社会福祉問題解決を示唆していると思った。日本文化、日本人の人間関係（つながり）からのチームアプローチの確率も視野に入れていくべきと思った。質問できなかったが、介護保険制度下においてソーシャルワーカーよりもケアマネージャーのほうが知名度が上がり、高齢者も呼び合っている現状の中、ソーシャルワーカーがどこかへ消えてしまう危惧がある。ケアマネジメントとソーシャルワークはイコールではないのか。ソーシャルワークの一つの手法なのか。敢えて分化する必要もないのか。論議が欲しかった。
- ・タイムリーなテーマで、現在の専門職教育の課題が整理されて良かった。全体的に時間が不足していて残念だった。
- ・視覚障害のために、配布される資料の元になるデータをフロッピー等で提供してもらえると良い。
- ・資料は用意してきてからシンポジウムに出ていたかった。
- ・素晴らしかった。田中先生の講演を期待してきたが、期待通りだった。
- ・回りの学生も福祉職ではなく一般職に就く傾向があるが、これも教育と実践がつながっていないことが原因ではないかと思った。
- ・大橋先生の報告はもっと聴きたかった。実は私もこの点については疑問というか不安があった。本日そのようなお話を頂き、今後私も研究していきたいと思った。
- ・ソーシャルケアというものの再認識と、サービスの形成の再構築が求められていることと思われるが、それぞれの人材を育成する教育機関、専門学校と大学の学部等、おのおの育成する役割や立場の違いも再確認する必要があるのだろうか。
- ・ケアワークとソーシャルワークの分化と統合の問題点、課題が見えてきたように思う。具体的な内容までは入っていないので、また別の機会でも話を聞く機会が欲しい。
- ・ソーシャルワーク、社会福祉研究者は、やはりソーシャルアクション的要素を踏まえることが重要であると痛感している。ソーシャルワークを社会的に認知されるように研究、実践したい。
- ・時間が不十分という感じがした。もう少しお一人ずつの意見を伺いたかった。ソーシャルワークの今後のあり方に危機感を持っている。日本の福祉従事者の養成の充実を心から願っている。利用者の生活の質を向上させるためには、なんとしてもソーシャルワーカーの質の向上が欠かせない。
- ・実践上における生々しい問題提起、提案があり、とても参考になった。特にチームアプローチと統合化の話は重要だった。



田中氏と山崎氏

- ・ソーシャルワーカーの仕事の内容、各々のポジションから柱へのリンクが足りないことが主張されていたが、各々のプロとしての意識、また質の向上の必要性が感じられた。
- ・社会福祉士を含めたソーシャルワーカーの置かれている立場、社会的な付加価値、人材としての社会的需要等々について論議がなされたが、気がかりな点として、今後の超高齢社会を控え、海外の福祉システムの応用では対応できない日本独特の高齢社会が到来すると考えたとき、

日本のソーシャルワーカーとしての仕事の分野、仕事の質、ワーカーの数、要求される能力（人材）がどうあるべきなのか、またそのシミュレーションと現状とのギャップ等々について、まとまった話がなかったように思う。会場に来られている方々をウォッチングすると、若い人が多く、ソーシャルワーカーを目指している人も多いように思われたので、国としての現状や将来の考え方を少しでも聴きたかったのではないだろうか。

#### 4. その他

- ・全体的に専門用語が中心で分かりづらかった。専門外の人にも理解できるような内容にして欲しかった。
- ・刺激的な内容で良かった。
- ・ソーシャルワーク／ケアワークの動くべき方向が英国を先導者として大きく動かなければならなくなっている。日本が世界のリーダーになれるような動きを期待したい。
- ・専門の先生方のお話なので、もう少し十分な時間をとったシンポジウムにした方が良いと思う。
- ・社会保障制度が各国でどのように成立したのかは面白かった（来年はドイツをより詳しく）。今回の取り組みは面白く、続けて欲しい。
- ・添付資料が豊富で大変有難い。
- ・参加者が大変多く、会場がやや狭く感じた。円了ホール等、舞台のある会場を検討するのも一案かと思った。
- ・せっかく大学で開催されているのに、現役学生の参加が少ないのはもったいない。
- ・スウェーデン等、北欧の福祉も勉強したい。
- ・シンポジウムはもう少し先生同士の議論など展開されれば、聞いている側も興味をもてるのではないか。また、時間配分を考え、質問の時間を多く取ってもらいたかった。
- ・シンポジウムのテーマは一本に絞ったほうが良かったのでは。
- ・一日使って開催すると、政策、制度、システム（シンポ①）と実践（シンポ②）がもっとかみ合って日本の課題への取り組みが浮き彫りになるのでは。特にシンポ②は時間が足りなかった。
- ・無料であるにもかかわらず、著名な先生方のお話を聞けた今回のシンポジウムに対して感謝します。大学院の学生としては、参加費の問題と質の高い講義といった両方において満足度が高かったものと位置づけができると思います。次回をとっても楽しみにしている。
- ・ぜひ次回も、この様なプログラムを楽しみにしている。
- ・①②とも時間不足で未消化であったが、多くの資料をいただいたので、今回の講演会をきっかけに問題意識を持って考えていきたい。
- ・大変有意義な講演会だった。できれば定期的に開いて頂けることを期待する。
- ・シンポジウム①と②はそれぞれ大きなテーマであり、どちらかに焦点化して時間をかけ議論をより深められればよかったと思う。
- ・実践して体験しないとつかめない分野が大きな穴になっていると思った。身体、知的、精神、この3つでさえも現状では不安を覚えている。
- ・①②ともに、それぞれの立場の課題や問題については良く語られていたが、プロダクトアウト的なまとまり方であり、マーケットインの語り掛けには不足していたように思う。参加者の質問のほとんどは現場、つまりマーケットの現実を直視した質問ばかりであったと自分なりに受け止めた。ソーシャルケアとしての社会的価値観の捉え方には参加者の多くが共感を覚えたと思うが、質問者の皆さんがマーケットの現実とのギャップを埋められたのだろうか。しかし、それに答えるには、あまりに時間が短すぎ、物理的に困難だと思った。
- ・社会福祉は2015年以降にピークを迎える近い将来の最大の国家的課題であり、国と国民の連帯の上に成り立つシステムと考えれば、シンポジストに国策に関わっている中堅官僚の参加があれば面白いのではないだろうか。

# 平成18年度 「NPO法人設立資金助成」の首都圏地区贈呈式の開催

7月11日（火）に平成18年度「NPO法人設立資金助成」首都圏地区1都3県の贈呈式を開催しました。

本年度は、障害者自立支援法の関係から、法内施設への移行を視野に入れた小規模作業所が法人化を目指すための応募が94件でした。全国の障害者・高齢者福祉団体からの応募総数249件に対し40%という高い割合を占めていました。（全国55件の助成先はP12に掲載）

東京ボランティア・市民活動センターの会議室をお借りしての贈呈式には、首都圏地区贈呈先13団体のうち11団体17名の方々にご出席いただき、選考委員長である板山賢治氏の選考概要の説明に続き、東京都生活文化局都民生活部長である和田正幸氏からの祝辞や、シーズ・市民活動をささえる制度をつくる会事務局長・松原明氏の講演もあり、こじんまりとした中にも温かさの溢れる贈呈式となりました。



選考委員長 板山賢治氏



シーズ・市民活動をささえる制度をつくる会  
事務局長 松原明氏



東京都生活文化局  
都民生活部長 和田正幸氏



贈呈式の様子



贈呈式終了後の交流会にて  
出席された皆さんから一言ずつお話しをいただきました

## 寄付のお礼

皆さまから温かい寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。当財団の事業は、皆さまからの貴重な寄付金により成り立っております。法人、個人問わず広く寄付金を受け付けておりますのでご協力をよろしくお願い申し上げます。  
(平成18年8月末日現在)

西嶋 梅治 様  
その他個人1名様

平成18年度「NPO法人設立資金助成」贈呈先一覧

都道府県	団体名	代表者名	都道府県	団体名	代表者名
北海道	共同作業所 ヨベル運営委員会	秋葉 泰地	長野県	特定非営利活動法人 学童教育支援ネットワーク ドリーム	裕本 修二
北海道	サポート・なんでも話そう会	浅野 一雄	岐阜県	ハウス希望	久保田 正司
北海道	幕別町手をつなぐ親の会	佐藤 恵子	静岡県	ひつじの会	藤田 安
北海道	精神障害者地域共同作業所 かもめ共同作業所	松永 繁雄	京都府	左京区障害児親の会 左京共同作業所	松葉 弘
北海道	ユートピア共同作業所	幡本 慎一郎	大阪府	大正区福祉作業所 ねぎぼうず	田頭 仁枝
宮城県	(仮称)小規模作業所ネットワーク	飯嶋 茂	大阪府	福祉作業センター はなまる広場	西尾 英樹
宮城県	つばめっこ	桑原 則子	兵庫県	はなみずき作業所運営委員会	竹島 留美
山形県	心身障害児者小規模通所作業所 手づくりクッキーおからや	奥山 茂	兵庫県	アミーゴ	猪原 富士子
福島県	綴町作業所	小柳 湖津江	奈良県	精神障害者小規模作業所 杏陽館	阪本 絹代
茨城県	筑西地方家族会共同作業所	古池 源造	和歌山県	南紀ひまわり作業所	屋敷 満雄
栃木県	大田原地区ひまわり共同作業所	室井 尚武	鳥取県	特定非営利活動法人 精神障害者家族会すけっと	樋口 侑子
群馬県	わたらせ虹の会	柿沼 文子	岡山県	特定非営利活動法人 ゆうあいファミリーあい	吉田 文子
群馬県	ふきのとうの会	久保田 明男	岡山県	ひなたぼっこファミリーの会	浅原 精二
埼玉県	吉川なまずの里福祉会	戸張 勝弘	広島県	ひまわりの家 小泉作業所	吉田 良輝
埼玉県	桶川地区精神障害者を守る会 あけぼの会	加藤 きみ	広島県	脳外傷サポートセンター	馬屋原 誠司
千葉県	小規模作業所コスモス	青野 知子	山口県	特定非営利活動法人 つくしの会	中村 信義
東京都	綾瀬共同作業所	高村 耀次	徳島県	重複聴覚障害者地域共同作業所 やまもも	安芸 正枝
東京都	けやき亭(NPO法人けやき精神保健福祉 会)	柏木 昭	徳島県	精神保健ボランティア 「ハート・とくしま」	大西 順子
東京都	知的障害者通所授産施設 どんぐりパン	岩崎 孝枝	高知県	共同作業所 ゆら・ら	市川 勢津子
東京都	MOVEインターナショナル日本支部	白崎 淳子	高知県	共同作業所 ホップあき	松田 英寿
東京都	精神障害者小規模共同作業所 リフレッシュクラブ	栗田 一秋	福岡県	ワンハート陽だまり	田中 十三一
東京都	墨田区精神障害者家族会 作業所運営委員会	高木 博光	福岡県	知求工房アビリティ 作業所みなみ	山本 泰子
東京都	Filo	吉田 吏貴	佐賀県	佐賀県精神障害者小規模作業所 やまと共同作業所	陣内 英信
神奈川県	ノーマライゼーションをすすめる会 Team Olive	三上 智子	長崎県	ロバの会	畑山 裕詩
神奈川県	グループ夢喰虫	山口 光雄	熊本県	小規模作業所 カムワークたんぼぼ	椎葉 英二
神奈川県	日だまり工房 運営委員会	禿 準一	宮崎県	北郷町通所福祉作業所 さくらの里	後藤 純範
新潟県	新潟市精神障害者地域家族会	小山 光夫	鹿児島県	若竹作業所 工房「たけん子」	肝付 修二
山梨県	精神障害者小規模作業所 さくらハウス石和	関本 里枝			